

- 食品
- 食品添加物
- 化粧品
- 医薬部外品



## 北海道南幌町産 たもぎ茸由来

# 『たもぎ茸エキス1Bx・10Bx・エキス末』

**技術  
資料**

### 北海道の伝統的食用キノコの良さを濃縮



タモギタケはアイヌ民族も古くから食べてきたヒラタケ科の食用キノコで、北海道の短い夏の間しか採れない貴重なものでした。人工栽培技術の開発により、現在では北海道内の主要スーパーに並んでいるほか、1道2府35県の学校給食にも使われています。北海道の樹木のおがくずをベースとしたキノコ培地を培養菌に充填して殺菌後、厳しく管理された無菌的環境のもと、自動制御で種菌を接種しています。キノコの生育に最適な空調管理をしながら、大切に栽培されたタモギタケが原料です。もちろん農薬などの使用もありません。このタモギタケの有効成分(エルゴチオネイン、βグルカンなど)を活用するために熱水抽出エキス化したのがこの原料です。エルゴチオネインの定量法と精製法は、札幌医科大学との共同研究で確立しました。

#### ■ 期待される機能性と摂取目安量

	1Bx	10Bx	エキス末
免疫賦活作用	200g/日	20g/日	3g/日

他にもメタボリックシンドロームの予防・改善、抗疲労、皮膚改善、アンチエイジング作用、血圧降下作用など

#### ■ 用途提案

- ◎ 化粧品原料として(抗酸化力など)
- ◎ ヘアケア用品に(自然免疫賦活作用)
- ◎ オーラルケア用品に(自然免疫賦活作用による抗菌)
- ◎ アンチエイジングドリンク(腸管自然免疫賦活作用による)

#### ■ 製造工程



#### ■ 化粧品原料表示

表示名称	タモギタケエキス
INCI名	Pleurotus Cornucopiae Extract

#### ■ 表示名称例

たもぎ茸エキス など

#### ■ 品質規格

	1Bx	10Bx	エキス末
原料	タモギタケ 100%		タモギタケ 66.7% デキストリン 33.3%
固形分濃度(Brix)	1%	10%	-
性状	黄褐色～茶褐色の液体で、特有のにおいがある		淡黄褐色の粉末
一般生菌数	30個以下/g		3000個以下/g
大腸菌群	陰性		陰性

#### ■ 分析値(100g中)

	1Bx	10Bx	エキス末	
エネルギー	1.2	12	320	kcal
水分	99.2	91.6	7.8	g
たんぱく質	0.44	4.4	26.8	g
脂質	0.1未満	0.1未満	0.1未満	g
炭水化物	0.24	2.4	52.4	g
ナトリウム	2.88	28.8	45.3	mg

\* 上記はあくまでも分析例です。含有量を保証するものではありません。

#### ■ その他

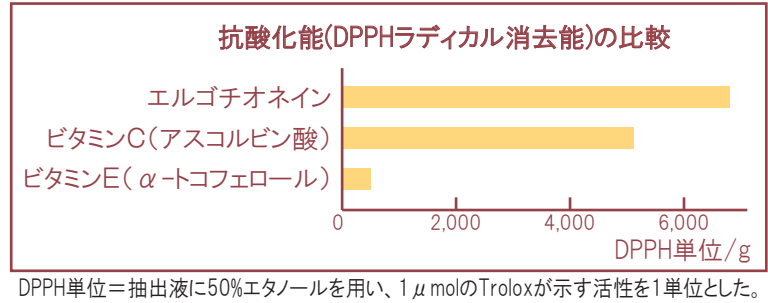
	1Bx	10Bx	エキス末
入目	1kg×12袋		1kg
賞味期限	製造日より6ヶ月	製造日より1年	製造日より2年
保存条件	直射日光を避け、冷暗所に保存。		

### お問い合わせ

北海道南幌町産『たもぎ茸エキス1Bx・10Bx・エキス末』

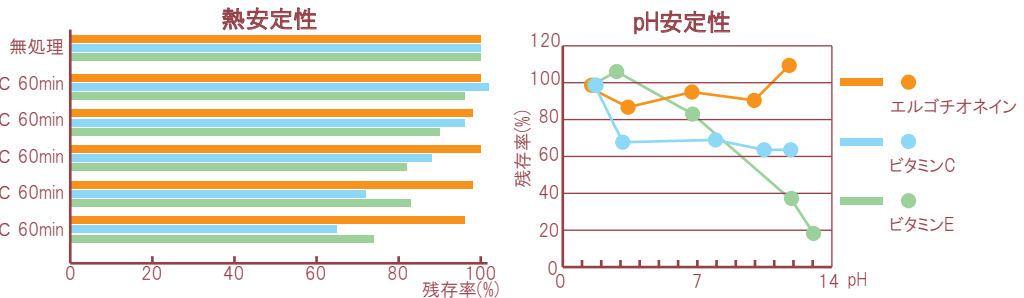
■ エルゴチオネイン(ergothioneine)とは

エルゴチオネインは広くキノコ類に存在する化合物で、食物連鎖によって動物体内で吸収、蓄積され、血液、肝臓、腎臓、心臓、肺、膵臓、神経系、精液などの各種重要臓器や体液に存在する重要なアミノ酸です。強い抗酸化活性を示し、活性酸素の1種である一重項酸素、ヒドロキシラジカル、peroxynitriteなどを消去します。



■ エルゴチオネインは高温域やpH安定性が高い

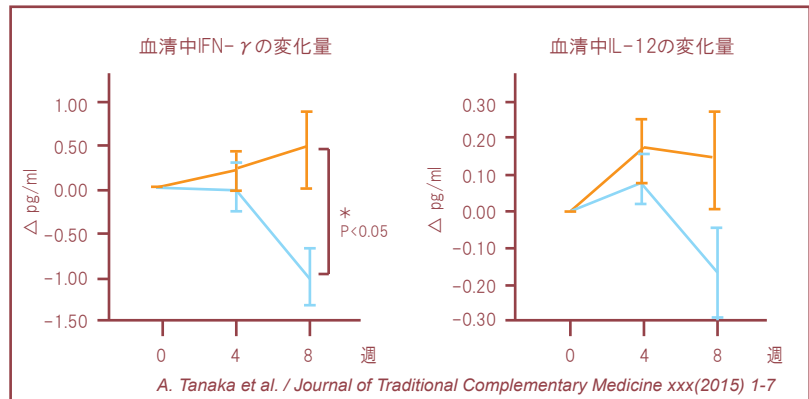
エルゴチオネインはビタミンCやビタミンEに比べ、高温域での安定性が高く、すべてのpH域で安定性が高いことから使いやすい抗酸化物質といえます。



■ 免疫賦活作用による疾患予防効果



34歳から64歳の男女47名の被験者をたもぎ茸エキス摂取群とプラセボ群に分け、二重盲検並行群間比較試験を実施し、たもぎ茸の免疫賦活作用について検証したところ、たもぎ茸エキス摂取群では、血清中のIFN-γおよびIL-12を上昇させ、IL-10およびIL-13および他のサイトカインの血清レベルを低下させることがわかりました。このことから、たもぎ茸エキスは、マクロファージのIL-12-IFN-γ経路によって、Th1表現型の増強を介して、免疫系を賦活する力を有し、種々の疾患の予防に有効である可能性が示唆されました。

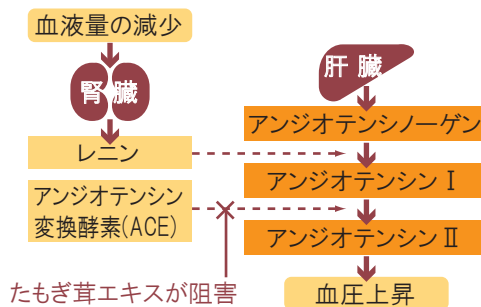


■ 血圧降下作用/Ace活性阻害成分

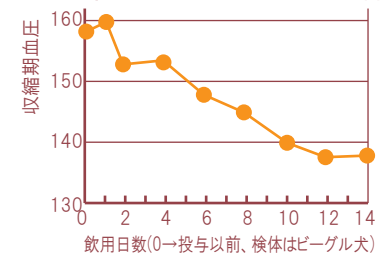


高血圧症の大部分を占めるといわれる本態性高血圧症では、レニン - アンジオテンシン系という血圧調節機構が重要な因子と考えられています。血液量の減少とともに、肝臓でつくられた血液中のアンジオテンシノーゲンが腎臓から分泌されるレニンという分解酵素の作用でアンジオテンシン I に変化し、さらにアンジオテンシン変換酵素(ACE)の作用でアンジオテンシン II となり、この物質が血管の収縮作用などにより強力な血圧上昇作用をもたらします。たもぎ茸エキスには、この血圧を上げるアンジオテンシン II を生成する体内の変換酵素(ACE)の働きを阻害して、血圧が上がらないように作用する物質が存在することが明らかになりました。

(特許第4623996号)



たもぎ茸エキスが血圧に与える影響



お問い合わせ